木曽川水系連絡導水路計画の見直しを要望いたします

２００７年１０月３日

田中万寿
名古屋市民・愛知県民

＜徳山ダム導水路計画になぜ長良川が＞

今回公表された「木曽川水系連絡導水路計画」（徳山ダム２導水路併設案）は，長良川河口堰のゲートを未来永劫開けない，という当局の決意表明のように，私には感じられました．

徳山ダムの水の導水路計画に，なぜ突然，下流部で長良川から木曽川への導水路が付け加わることになったのでしょうか．河川環境改善のためという目的で，長良川中流部に注入した約４トンの水は，そのまま長良川を流すのではなく，約２４キロ地点の下流部から導水路で再び木曽川へ回収するという計画です．これにより木曽・長良・揖斐の木曽三川が水路で繋がることになります．

１９９４年頃に中部経済連合会が，名古屋から浜名湖まで高速道路沿いに水路を開削し，これらの水をコンピューターでコントロールすることで水系ごとの融通をする仕掛けが必要である，という提言をしたと伝えられています．また国土交通省は，同水系未利用水を売買する「水バンク」制度を導入する方針と報道されています．今回の徳山ダム導水路計画に下流案が付け加えられたのは偶然ではなく，長年の計画実現だったと思われます．

川を流れる水を「水資源」ととらえれば，川は単なる水路であり，水を自由にやりくりできれば効率的・合理的だというのかもしれません．しかしこの計画には，そこに棲む生き物，川が育んできた歴史や文化，地元の産業や人々の生活への敬意や思いやり，今後あるべき町作りへの配慮が全く欠如しているとしか思われません．

＜長良川は今＞

１９９５年に長良川河口堰のゲートが閉じられてすでに１２年が経ちました．

河口部は長大な河口湖となり豊かな芦原は消滅し，汽水域はなくなり，日本有数のシジミは絶滅し，長良川を全国に有名にしていた天然鮎の遡上は激減しています．釣り人の姿は少なくなり，鵜飼を訪れる観光客も最盛期の三分の一近くになってしまいました．スーパーで見かけるのは遠く離れた宍道湖や青森のシジミばかりで，桑名の特産だった長良川産のシジミを買うことはできなくなりました．天然鮎も見かけることは稀です．河口から遡った鮎を捕る鵜飼をと期待して鵜飼に来ても，天然鮎を味わうことのできる幸運な観光客は数少ないのが実情です．

河口堰はわずか１０年で，長良川沿いの文化や経済に様々な形で大きな影響を与えています．そしてなにより，誇りとしてきた大切な川を失ってしまった人々の落胆と哀しみ，無念さや喪失感は言葉では言い尽くせません．

＜岐阜の町では＞

常緑樹で覆われた金華山と，そのほとりを流れる長良川は岐阜に住んでいる人々だけではなく，岐阜を離れた者にとっても大切な原風景です．長良川の伏流水はおいしい水道水源になり，暗渠になってしまったものが多いとはいえ，水路が町中を流れ，長良川は岐阜の市民に豊かな恵みをもたらしています．しかし長良川河畔の旅館街も廃業が相次ぎ，由緒ある町家の町並みは減り，訪れた観光客には寂しい風景が広がっています．

こうした中で最近になって，市民が中心になり岐阜の大切な緑豊かな金華山と長良川，長い歴史が育んで来た町並みを見直し，保存再生し，新しい町作りに活かそうという動きが生まれています．若者たちも多く参加していると聞きます．岐阜市が中心になって，長良川畔に「鵜飼ミュージアム」を建設しようとか，長良川を文化庁による「重要文化的景観」に選定指定を目指そう，という構想も報道されています．そのためには，何よりもかつての自然河川・長良川を取り戻さなければなりません．

＜名古屋市民として＞

私が岐阜を離れ名古屋市民、愛知県民となって四半世紀になります。この間

安心して使える木曾川からの豊富な水の恩恵に日々浴してきました。この快適な生活は、長年にわたる多くの人々の努力と，上流県（長野・岐阜）の犠牲に支えられています．木曾川は私たちの現在の生活のために数多くのダムで分断され，本来の自然の姿を破壊されてきました．だからこそ、今ある資源を大切に、できるだけ環境を守って節度ある生活をしていくことが私たちの義務であると思っています。日頃から節水を心がけ生活することが．浪費体質に陥らず結果的に渇水に強い都市をつくることに繋がるのではないでしょうか.

１９９９年に、名古屋市はごみ処分場にほぼ決まっていた藤前干潟を保存する決断をしました。以来名古屋市民はこの決断を歓迎し、これを契機に一人一人がゴミ減量に積極的に取組み，見事ゴミ減量の実績をあげてきました．「ヤレバ　デキル」と市民に誇りと自信が生まれました．国の内外から「環境都市」と呼ばれるようにもなりました。この経験を是非，水利用政策にも生かしてください.

＜河口堰見直しをこそ＞

計画立案に係わられる方々は，従来の計画に固執し拙速に計画を進めるのではなく，水利権を持つ水利用者間の水利調整などの方策を検討し，量的拡張路線から環境重視路線へと，今こそ柔軟に計画を見直し変更してください．そのことこそが，「川を総合的に見直そう」という「新河川法」の精神に沿うことではないのでしょうか．河口堰見直しをも含め，今回の導水路計画の再考を強く要望いたします.